

授業改善推進プラン

文京区立茗台中学校

教科名 (音楽) 指導者名 (今野 厚子)

生徒の状況・課題の分析

<p>(第1学年)</p> <p>様々な音や音楽に関心を持ちながら音楽活動に取り組む生徒が多い。基礎的な音楽用語など知識を得ようとする姿勢はあるが、それがどのように様々な音楽表現に生かされているのかを考えることには受け身的である。</p>
<p>(第2学年)</p> <p>全体的に落ち着いた授業態度である。楽典などの基礎知識の定着にばらつきがある。音楽の構成要素を基に様々な記号とのかかわりを活かした音楽表現について自ら考えて意見を発表したり、それらを生かして主体的に表現を工夫しようとしたりする生徒は少ない。</p>
<p>(第3学年)</p> <p>全体的にまじめに授業に取り組んでいる。多くの生徒は、曲想を感じ取りより良い表現をするための技能を身に付けようとするが定着に時間を要している。正答を求め余り、音楽の構成要素を基に音楽表現について自ら考えて発言することや主体的に工夫しながら表現活動に取り組むことは少ない。</p>

教科の目指す育てたい力

<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽から気づいたことや感じたことを自らの音楽表現に生かすことができる力。 様々な文化の多様性を理解し、より豊かな生活を送ることができる基礎知識や演奏技能。
--

授業改善推進プラン (課題解決のための具体策)

<p>(第1学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> リズム創作などを通して、読譜のための基礎を身に付けさせると共に、表現の工夫をするおもしろさや楽しさを味わわせる。 基礎的な音楽用語の定着を図りながら多様な音楽に触れ、楽曲の特徴など気づいたことや感じ取ったについて意見交換をする場を積極的に設け、自らの表現活動に生かしていけるようにする。
<p>(第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲を持って取り組むことができなくなるクラス合唱などの機会を利用して、意見交換のしやすさや雰囲気を作るが、既習の基本的な音楽用語や仕組みを生かした表現を感じる・考える習慣を身につけさせ、主体的に音楽表現の工夫をしようとする姿勢を育てていく。 歴史的・文化的背景や作者の思いなどについて触れながら、多様な音楽の特徴を理解し、良さや美しさなどについて意見交換をする機会を積極的に設けていく。
<p>(第3学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声体操などを促し、体得した表現技法を短時間の着せたい・オーミングアップで生徒自身の気づきを促し、表現の方向性を定めてのクラス合唱の取り組みを利用して、意見交換のしやすさや雰囲気を作るが、既習の基本的な音楽用語や仕組みを生かした表現を感じる・考える習慣を身につけさせる。 多様な音楽に触れ、その働きや美しさなどについて意見交換をする機会を積極的に設けていく。